

平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」に「学科横断 型パッケージ・プログラム教育」が採択されました。

教育課程の工夫改善を主とする取り組みとして、「学科横断 型パッケージ・プログラム教育 - 学びの幅と深さを実現する農学系パッケージ・プログラム教育システムの構築 -」を以下の要領で実施します。

【現状と課題】 地球環境問題、エネルギー資源問題、食料問題や人口問題の深刻化などを背景に、農学教育に対する社会ニーズ(出口)と学習者ニーズ(入口)は多様化する一方である。これまでは、教育ニーズの変化に対して、学科組織の再編により対応してきたが、履修課程だけではなく教員組織の改廃も同時に行わなければならない、現在のような教育ニーズ変化の規模と速度に対応するには限界がある。本取り組みでは、このような多様な教育ニーズに対し、リアルタイムで対応可能で、かつ、教育の質を確実に向上できる教育システムの構築を行う。

【目的】従来とは異なる履修課程の設計方法(パッケージ・プログラム教育システム)により、教員組織と履修課程の分離を合理的に行い、学生自身が自らのカリキュラム設計に参画し、PDCAによって教育の質を不断に向上させることのできる教育システムを学士教育課程において実現する。これにより、学びの幅と深さを実現する農学系パッケージ・プログラム教育システムを構築する。具体的には下記の3つの取組を実施する。

【取組Ⅰ】パッケージ・プログラム方式による構造化カリキュラムの実践(PDCAのPlanとDO)

本学では、地域生態システム学科において平成18年度からパッケージ・プログラム教育システムを実施している。プログラムは、複数の授業にまたがる内容を系統的に学ぶことを容易にするために、2~3の講義科目を一組にした“パッケージ”を基本単位として積み上げ(基本パッケージ)、それらに関する学習の理解を広げる推奨科目を加えて構成されている。基本パッケージ科目と推奨科目の履修指定はプログラムごとに異なるが、指定された要件を満たすとそのプログラムを修了したことになり、学科卒業と同時にプログラム修了認定証を授与する。平成20年度には、カリキュラム・ポリシーの異なる8履修プログラムによる教育を教員組織と履修課程の合理的な分離の下で開始する。

【取組Ⅱ】戦略的FDによるPDCAサイクルの実現(PDCAのCheckとAction)

地域生態システム学科が実施したパッケージ・プログラム教育システムを対象として、その機能の評価と改善方法を検討する。大学教育センター(FD部門・教育プログラム部門)の協力により実施し、実施中の8履修プログラムの検証と改善作業を行い、PDCAサイクルを完結させる。

【取組Ⅲ】学部共通履修プログラム・フィールド実習プログラムの設置による 型教育システム構築

地域生態システム学科における先行実施の実績を活かし、そのコンセプトを農学部全学科に拡充する。すなわち、社会ニーズに対応した4履修プログラム(環境教育、地域活性化、バイオマスコン

トロール、食の安全管理)(案)を農学部5学科の共同運営として平成22年度カリキュラム改訂に合わせて発足させるとともに、スーパーフィールド実習プログラム(“雲と自由の”フィールド実習)を設置し、農学系学士教育の普遍的基盤である“農場実習などの現場体験による学びの動機付け”を体系的に強化した 型教育システムを農学部における学科横断型教育システムとして立ち上げる。実施後は、FDと評価に基づき、節目で履修プログラムの組換えや改訂を行い、PDCAサイクルに沿った教育課程を農学部全体で完成する。

型教育システム

中軸は5学科の個別学術分野の履修課程を、上軸は社会ニーズ対応型の4履修プログラムを、下軸は農学系学士教育の普遍的基盤であるフィールド実習プログラムを表す。中央の輪は、本教育システムを実体化させるために不可欠な学科横断の連携実施体制(連携の輪)を象徴している。

